

発行日：平成17年1月1日
発行所：法雲寺
発行者：吉川広隆



浜田家ご寄進の壺

東林山 法雲寺

〒667-1311兵庫県美方郡村岡町村岡2365
TEL：0796-98-1151・1161 FAX：0796-98-1168

法雲寺報

<http://www.houun.net> Eメール：info@houun.net

明けましておめでとう御座います。

昨年は公私にわたりお力添えを賜り、誠に有難う御座いました。

檀信徒の皆様方には天台宗開宗千二百年の慶讃事業として発願いたしました「本堂前ガラス戸交換」及び、「山門瓦葺き替え」等の事業実施に際し多大なご協力を頂きましたこと深く感謝いたします。

おかげをもちまして、記念事業は首尾よく完了できました。今後は法雲寺という場所を活かし、人々に親しんでもらえる利用方法を考えて行かねばなりません。

この4月には町村合併により「村岡町」と言う町名も消えてしまいます。今まで受け継いできた「但馬村岡」と言う独自性、地域の特色が薄らいで行く可能性も有ります。

「香美町」(新町名)の中の村岡、村岡の中の法雲寺としてどのような存在意義を持たせるのか？皆様方に御智恵を拝借させて頂くことかと存じますが、その際にはご協力をお願い申し上げます。

さて、未だに以って殺伐とした世相ですが、歳も改まり平成十七年となりました。今年こそは平安で穏やかな世の中となりますことを祈念致します。

平成十七年元旦 法雲寺 吉川広隆



浜田家ご寄進「比翼の鶴」

開宗千二百年の慶讃事業、無事完了

冒頭でもご報告しましたように、天台宗開宗千二百年を記念しての法雲寺の記念事業であります「本堂前ガラス戸交換」及び「山門瓦葺き替え」の工事が無事に完成いたしました。地元檀信徒の皆さんには、大師講(H16/11/23)の折に工事の完成をご報告し、披露させて頂きました。

ご協力頂きました檀信徒の皆様始め業者の方々には深く感謝いたします。

(詳しい会計報告は改めてご報告致します)



山門の新瓦



本堂正面のサッシ



奥の間縁側のサッシ



明るく開放的になった縁側



寄進者の芳名額

山名氏史料館「山名蔵」収蔵品益々充実

前号でもお伝え致しました如く、昨年5月、山名氏史料館設立に多大な貢献を頂きました濱田義明（法名：叡観）氏が急逝なさいましたが、この度、濱田氏生前の御意志を引き継がれた御遺族が、氏所蔵の貴重な美術品の一部をご寄進くださいました。

今回は写真のような大振りな美術品ばかりで運搬にも気を使いましたが、お陰様で史料館2階展示室の趣が豪華なものへと一変致しました。

今後は多くなった収蔵品の効果的な展示や、遠来の来館者にも気軽に訪れてもらえる工夫が必要に思えます。

尚、史料館の参拝は随時可能ですので、ご来館の際にはご一報下さい。



和宮のご婚儀調度品と言われる象牙製「比翼の鶴」



唐三彩の白馬。皇帝の副葬品か？



金襴大花瓶、青花龍文梅瓶、べっ甲細工木製屏風



北京故宮調度「七宝大香炉」



伊万里、色絵蓋付大壺

平成十六年は天災に人災に日々驚かされた一年でした。天災の面では・・・但馬地方は台風23号により今まで経験した事がないような水害に見舞われました。でもこれとて純粹に天災であるとはいえないように思えます。荒れ果てた山々やそこに放置された数多くの木材、経済効率のみ優先の無計画な開発などが回りまわって、災害に弱い大地に変えてしまったという可能性も少なからずあったのではないのでしょうか？

人災の面ではどうでしょう？こんな田舎でも時折怪しげな電話が掛かってきたり、ボランティア？と称する怪しげな輩が寄付金勧簿に回って来ます。いつも犯罪の罠にはまり込まないように注意して生活をしないでならない世の中になっています。これで本当に心豊かな世の中と言えるのでしょうか？「人を騙してでも・・・人のものを奪ってまで・・・」と考える人種が急激に増えてしまっています。何故そんなことを考え、平気で出来るのか？何ともやりきれない思いがします。結局、世の中の仕組みが、ひいては家庭としての働きが出来ていない家が増え、そんな輩を次々に生み出していると言うことになるかと思えます。

ある若いお母さんの話、その奥さんは代々家業を受け継ぐ家に嫁いで来られ、目出度く長男を出産され、子育てに奮闘する毎日を過ごされています。「家を継がせる事が出来る大人に育てるのに必死です。勉強は兎も角、家を任せる事が出来る真っ当な人間に育てねば、その思いだけです・・・引き継ぐものが有ると無いとでは、子供の育て方は全然違ってくると思えます。」

今の世の中、家庭とはいったいどんな役目があるのでしょうか？ただ命を次代に繋ぐだけの「生物的繁殖単位」でしかないのでしょうか？教育という言葉が重要視される中で家庭の持つ意味ももう一度、確認すべき時に来ているように思えます。（詳しくは次号で）

平成十七年は少しでも良い方向に世の中が流れ、是非とも穏やかな年で有りますように祈念致しております。